

大阪府環境影響評価審査会 水質・廃棄物専門調査部会及び自然環境専門調査部会（合同）

議事概要

- 1.日 時 令和 8 年 6 月 29 日（月曜日）10:00～11:15
- 2.場 所 大阪府咲洲庁舎（さきしまコスモタワー）21 階 公害審査会室（オンライン併用）
- 3.議 題 大阪港新島地区埋立事業及び大阪沖埋立処分場建設事業に係る 2-1 区護岸概成時の環境影響
検討調査報告書についての専門調査部会報告（案）について
- 4.出席者 部会委員（石田委員、惣田委員、中谷委員、日下部専門委員）、事業者、事務局

5.議事概要

○事務局から「大阪港新島地区埋立事業及び大阪沖埋立処分場建設事業に係る 2-1 区護岸概成時の環境影響検討調査報告書についての専門調査部会報告（案）（以下、「報告書案」とする。）」について説明

○主な質疑応答

【石田委員】報告書案の別紙3-2の底質について、シルトや粘土分のグラフがあるが、それ以外の粒径の土砂のデータもあるか。また、調査点2～5の推移は示されているが、海水の流れの調査点 1 や 6 における底質の結果はないか。

【事業者】底質については、粒度組成を全て調査しており、その他の粒径の結果もある。別紙3-2でシルトと粘土分だけをグラフ化したのは、前回の部会でのご指摘の中で、シルト・粘土分の変化が底生生物の生息環境として重要であるというご指摘をいただいたと考えたためである。海域生物の調査については、海域生態系の底生生物調査は同じ4地点、貧酸素関連調査の生物調査は6地点（うち3地点は同じ）で行われているが、底質の経年的な変化の調査については、別紙3-2に記載の4地点での調査を行っている。

【石田委員】重要というより、シルトや粘土分が増えたと問題である。どちらかというと砂の方が、生き物にとって重要な生息環境になる。この辺の土砂環境などが変わってきているという話もあるので、底質の経年変化を確認できる調査点について、この4地点の調査だけで底質環境が悪化していないのか判断するのは難しいと思う。

定期的なモニタリングの必要性について前回の部会で発言したとおりである。昨日に聞いた大阪湾に詳しい方の講演では、この数年で海水温がかなり上がっていて、それに伴って生物の分布や種類、個体数が非常に変化しているとのことだった。特にここ数年の 2020 年代になってから、植物プランクトンの有毒性の渦鞭毛藻の仲間がかなり増えてきている。今回の報告書の調査結果では、優占種になっていないものの、数年単位で生物の状況が今現在変化しているので、毎年調査は必要ないかもしれないが、数年に 1 回など定期的なモニタリングが必要ではないか。

【事業者】今後の事後調査計画については、必要に応じて、関係機関と協議・検討を進めたいと考える。

【日下部専門委員】別紙2について、報告書に盛り込まないのか。

それから、別紙4の表層の塩分について、経年的に見ると C-3 でかなり低下しているように見える。C-3 付近の調査点4のデータ等は報告書にあるか。

最後に、部会報告案の「5. 調査審議結果」について、ヨシエビが文章中にあるが、当時は、大阪湾でヨシエビがたくさん獲れていた。埋立地周辺の大阪湾奥部では、ヨシエビの小さい時の生息場所として、重要な

働きを果たしていたということで、当時の大阪府立水産試験場がヨシエビをしっかりと調べなくてはいけないという意見をしたためと思う。その後、環境の変化などでヨシエビの資源量が少なくなり、特に大阪湾奥部では、おそらく底層のエサの量の減少により、ヨシエビの稚エビがあまり生息していないという状況になっている。そういう経緯を将来の担当者にもわかりやすいように、どこかに記載しておいた方がよいと思うがどうか。

【事業者】別紙2について、報告書には調査点ごとのデータは記載していない。埋立地周辺の水質の状況について、報告書の8-4頁以降に水質の一般項目のグラフは記載している。

それから別紙4について、C-3付近の調査結果はあるが、現在の報告書には記載していない。

【事務局】ヨシエビに関する記載内容や方法については、日下部専門委員とご相談させていただく。

【日下部専門委員】塩分の件について、埋立地などの構造物を作ると当然河川からの流れが変わるので、その影響でC-3の塩分が低下しているのか。あるいは雨が近年多くて淀川からの流量が多くなり、表層の塩分が下がっているのか気になる。調査点4などで、そういう傾向はないか。

それから、別紙2のグラフは、報告書の6-72頁のグラフと同じデータから作成したものか。別紙2の方がわかりやすい。

【事業者】塩分のデータについて、報告書の8-4頁以降に追加したいと思う。

それから、別紙2について、必要であれば追加することを検討する。

【日下部専門委員】生物関係のデータは、色々ところで個体数や湿重量は減っているかと思うが、漁獲量が減っていることを考察した上で、例えば種類数が減っていない、あるいは底質がこの場所だけ悪くなっていないことを示し、報告書に記載されているように埋立地の影響ではないと評価してはどうか。そのことを説明するために、別紙2のグラフはあった方がよい。

【事業者】別紙2について、報告書の6-71~72頁に追加し、ご指摘いただいたような考察も追記したいと思う。

【中谷委員】部会報告案の8頁について、恒流のエスチュアリー循環流の事業者の回答で、エスチュアリー循環の流量が増えて、下層で大阪湾奥部に流入する流量が増える、あるいは表層の河川出水で、河川プルームが広がって、海面でのシアアが増えたと、当然湧昇する海水量も増える分、水平発散する流量も増える。それに過度が掛け算されて、それがいわゆる高気圧性循環流であり、西宮沖環流の流速値として反映されてくると思う。だから、エスチュアリー循環が強ければ強いほど、水平発散する流速、西宮沖環流の水平流速に効いてくると思うが違うのか。

【事業者】今回の調査結果だけでは、難しい問題だと思う。2002年の特に夏季には、かなり河川流量が多く、下層に沖合から入ってくる流れが非常に強くなり、結果的に打ち消し合う方向になって、西宮沖環流が不明瞭になった可能性があるかと考察している。

【中谷委員】そうすると、報告書の6-21,22頁で、東西成分流速を時系列で示されているが、出水時に環流をかき消すような底層のエスチュアリー循環というか、補償流が流速成分として出てくると思うが、調査結果に出てきているのか。下層の流れとして、大阪湾奥部に向かう流れが強くなっていることが、調査結果から確認できると思うが、実際そうになっているか。

【事業者】報告書には、調査点1しか記載していないが、ご指摘のような流れが起こっているとすると、他の地点の流速も確認して判断する必要があると思う。流速の観測結果で沖から入ってくる流れの流速が明らかに大きくなっていることが示せるかどうかについては、他の地点のデータを見て検討したい。

【中谷委員】データの解析はできると思う。こういった考察で、これが原因だと考えられるということを書かれる

なら、その根拠があって良いと思う。

もう一点、前回の繰り返しになるかもしれないが、過去は電磁流速計(※)で、今回は ADCP で測定したということで、そもそも計測原理が違うので、計測方法の違いがどれだけ調査結果に影響しているかわからないという考察をされているが、2000 年代でも電磁流速計(※)であれば、それなりの流速をピンポイントであれば測定できたと思うが、潮流でさえ綺麗に測定できなかったのか。

(※) 専門調査部会の開催後に、事業者から「機械式流速計(インペラー式)」であった旨の回答があった【事業者】流速計の機器差を検討した資料がなかなかない。流速が非常に小さい観測値のため、機器による特性なのか、海域の特性なのか、少し判断が難しいと考える。

【中谷委員】最後のまとめのところでも、計測方法が違うから過去と現在での差が認められないとなっている。今回はもう仕方ないかもしれないが、次回のレビューの実施時では、計測方法の違いによって、差が検出できないということは、避けていただきたい。

次回の最終護岸概成時がいつになるかわからないし、まだ計画も立っていないので、具体的に検討を始められない段階であるのは理解するが、流速では計測手法の差を除外しないと環境影響評価できない。次回レビュー実施時というところの段落についても、その旨を加えてほしい。

【惣田委員】今の件を事業者を確認するが、中谷委員のご指摘に関し、西宮沖環流の影響がよく見えるようになったという記述は特に書かない、という回答か。原因がわからないものの、変化があったという評価を書いていたいただきたいという要望には、事業者は対応しないということか。

【事業者】部会報告案の8頁の内容については、委員からのご指摘で、どういったことが考えられるかということに回答した。事業者としては、西宮沖環流について、今回の調査結果で全て論理的に説明できるとは思っていない。どのように報告書に記載するかについては、事務局と相談したい。

【事務局】事務局判断というよりも、不明瞭であったという、そういう評価しかできないということであれば、仕方ないところはあるが、委員からこういう書きぶりが良いなどご指摘があれば、それを事業者で検討してもらう。

【中谷委員】水深6m の夏の恒流に関しては、2025 年の調査結果について、別にそんな小さい流速ではなく、10cm/s ぐらい出ている。一方で 2002 年度は出ていなかったのも、はっきり違いが出ていると思う。

【事務局】不明瞭とかではなく、はっきり差が出ているから、そのことについて書いた上で、原因がわからないなら不明であるという旨を記載すべきというご指摘でよろしいか。

【中谷委員】その方が望ましいと思う。

【事業者】検討する。

○以下、今後のスケジュールについて事務局から説明

7月15日(水) 第2回環境影響評価審査会